

鳥取県作業療法士会ニュース



No. 89 2015年11月12日発行
発行責任者：松本
編集責任者：勝部
発行所：鳥取県作業療法士会広報部
鳥取県米子市西町36-1
鳥取大学医学部附属病院

巻頭言

「役が人を育てる」

大山リハビリテーション病院
佐野

この言葉は自分が信条としている言葉であり、敬仰する先輩作業療法士がご使用される一言でもあります。文字通り特定の役割に身を置くことで割り当てられた仕事を果たし自らを成長させる事ですが、県士会の活動においてこの言葉はとても意義があると思います。

かねてよりこの職能団体は会員にとって利益を与えられる為の受動的な組織ではなく、自らが活動することによって外部へ作業療法士の有用性を発信する能動的な組織であると県士会理事の方々から言われてきました。現在では作業療法の啓発キャンペーンが東中西部地区で開催され、県民の皆様にも作業療法という言葉に触れる機会が幾分増えたように感じます。会員数も年々増加する中で鳥取県士会は多くの事業を展開しており、その役割に携わる会員は確実に研鑽を積み上げています。

また、近年のOT協会は新たな働きかけとして生活行為向上マネジメントを我々の新たなツールとして導入しています。27年度の介護保険報酬改定ではこの取り組みが加算として国から評価されることとなりました。OT協会の「ひとは作業をすることで元気になれる」のスローガンのもと対象者の活動・参加に視点を置き、その人にとって意味や価値のある作業を再び行えるようにする支援が開始されています。

この「作業」には役割が少なからず存在していると考えます。例えば病院職員としての役割、親としての役割、夫や妻としての役割など。その人の背景によって果たすべき役割と作業の価値観や意味合いは千差万別に変化していく事となり、介入方法も多様性が求められていることはOTの皆様には周知の事実と思われまます。

現に臨床では注意障害を呈した方に対して主婦としての役割に介入したところ、注意機能の改善を認めた報告がなされています。今後も作業と役割について関心を持って臨床に臨みたいと考えています。

今年度は介護保険報酬改定に伴い所属機関ないし部署自体が大きく役どころを変容された方も多いためと思います。今後も2016年の医療の改定に2018年の医療・介護同時改定など大きな改変が後に控えていることも我々は心に留めておかなければなりません。

さあ、皆さんは自分を育てる為にどんな役に就きますか？

各部局からの連絡・報告事項

【事務局より】

現在、日本作業療法士協会の会費を支払っておらず、鳥取県作業療法士会の会費を支払っておられる方が数名おられます。改めて皆様へ報告する形となりますが、一般社団法人 鳥取県作業療法士会の定款 第6条では正会員：日本作業療法士協会正会員で、鳥取県に在住または勤務し、この法人の目的に賛同するものと定めてあり、この数名については鳥取県作業療法士会の会員ではないこととなります。

県士会員ではない方が、県士会が主催する研修を受けようとされ判明しました。特に今年度からは地域包括ケアや生活行為向上マネジメント、認知症関連での協会・県士会が主催する研修会が多くあるため会員は研修会を受け自己研鑽できる形を取ることで作業療法士としての質を担保しています。今後も県士会といたしましては正会員の方々の利益を守り、非会員の不正利得とならないよう心掛けていきたいと思っております。

今回の件に関しては、事務局より個別に連絡を取り対応させていただいています。

今後の対応として、県士会の主催する研修会や事業については日本作業療法士協会の会員証の提示を求めることを理事会で検討していきたいと考えています。

今後ともよろしく願いいたします。

【財務部より】

1. 年会費について

年会費の納入にご協力いただきありがとうございます。

10月15日現在、48名が年会費未払いの状況です。年会費は5,000円となっておりますのでお間違えのないよう、未払いの会員様には早急にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

新入会員の皆様については、会員番号が確認できていない方はリストには記載されておられません。未払いの新入会員の皆様も早急にお振込みください。当士会への入会手続きがお済みでない方は入会手続き完了後にお振込みください。

なお、平成26年度会費未納により退会となった方の会員番号も掲載しております。

未納者リストは10月15日現在のものです。それ以降にお振込みされた方についても協会番号が掲載されてしまいますことをご了承くださいますようお願いいたします。

年会費は郵便振込みでお支払いいただけます。詳細は下記の枠内をご参照下さい。

口座記号番号：01310-2-51220

加入者名：一般社団法人鳥取県作業療法士会

※通信欄に必ず『H27年度』『所属施設（自宅会員の場合は「自宅会員」）』『金額』『住所』『氏名』を記載してください。記入漏れがないようご注意ください。
※複数名分をまとめて振込む場合は必ず全員の氏名の記載をしてください。

平成27年度年会費未納者（平成27年10月15日現在）

1749	14146	14361	16033	16040	17886	19119	19383	19900	20618
20619	23789	26316	26990	29442	29742	30023	30798	31439	34189
37436	37554	37920	38858	39931	40548	41400	42994	44339	44418
44419	44988	45152	45707	46136	46997	49103	49320	50405	53085
54826	55337	56693	56955	57544	59314	61105	62575		

平成 26 年度年会費未納により退会

16375	18941	22681	44675
-------	-------	-------	-------



【教育部より】

平成 27 年度生涯教育推進担当者会議報告

平成 27 年 10 月 3～4 日の二日間にわたり東京文具共和会館で平成 27 年度生涯教育推進担当者会議が開催されました。

議題は

- ・生涯教育制度の概要（勉強会）
- ・生涯教育制度推進班報告
- ・生涯教育受講登録システムについて
- ・MTDLP 研修と生涯教育制度の関連について
- ・生涯教育制度の現状と委員会事業の進捗状況報告
- ・基礎研修班報告
- ・認定作業療法士班報告
- ・専門作業療法士班報告
- ・ブロック内調整・情報交換・課題検討

などでした。

ここではこの中から県士会員の皆さんに関わりが深い項目について報告します。

1. 全国（47 都道府県）の中での鳥取県の現状
認定作業療法士数 21 位（1.3%）6 名
基礎研修修了者数 11 位（6.4%）30 名
2. 現職者共通研修講師・ファシリテータ資格について（確認）
鳥取県士会では 2013 年以降、経験 5 年以上のみでは講師資格がないとしていましたが「経験 5 年以上で現職者共通研修修了者」は OK と確認できました。
3. 現職者共通研修「10. 事例報告」の代替手段について
これまで SIG での発表に関して認定作業療法士のサイン等が必要としていましたが 2008 年度以降のシングルケースの報告・発表が確認できれば OK と確認しました。
4. 基礎研修ポイントの申請時期について
現在、鳥取県士会では「原則として受講等の後 3 ヶ月以内」としていましたが 2013 年度以降は時期を問わず OK と確認しました。
5. 新規 SIG 登録について
鳥取県士会では今年度より SIG 団体の認定申請は県士会が窓口となって協会に申請するとしていましたがこれまで通り県士会で認定して OK と分かりました。
6. 生涯教育制度と生活行為向上マネジメント研修との関連
来年度（2016 年度）からの改定案を示します。OT 協会教育部の「案」で今後協会理事会等で検討されますので変更があるかもしれません。
 - ・基礎研修制度の改定（MTDLP 研修の位置づけ）
MTDLP 基礎研修（概論 90 分＋演習 330 分）を現職者選択研修の一つとして扱い、かつ必修とする。現職者選択研修の修了は選択の 1 領域以上の受講と MTDLP 基礎研修の受講が要件となる。
 - ・2015 年度までに入会の会員で現職者選択研修の一つ以上が未修了の場合、2016 年 3 月 31 日までに MTDLP 研修を受講し MTDLP 基礎研修修了証を持っている会員は、選択研修の一つを履修したこととする。
 - ・現職者共通研修「10. 事例報告」の一つに以下を付け加える。「MTDLP 実践者研修における事例検討会で事例発表をする。事例発表は、MTDLP 事例検討会運営基準に基づくものとする。ただし、事例検討会は、生涯教育制度基礎研修修了者以上がファシリテーターを務めることを原則とする」
以上

【広報部】

『ひとは作業をすることで元気になれる』をコンセプトに

啓発キャンペーンを開催し『来場者 105 名』無事に終えることができました

主催： 一般社団法人 鳥取県作業療法士会

共催： 一般社団法人 日本作業療法士協会

協賛： ガイナーレ鳥取

開催日時：平成 27 年 10 月 17 日（土）鳥取駅前商店街 バード・ハット（鳥取市）

来場者： 105 名

活動内容：

- ① 作る一作業って楽しい！飾り箱作り
- ② 自助具作り—自助具ってなあに？おゆまるで簡単自助具作り
- ③ 自助具体験—いちどにありがとう 16・片手で出来る薬袋開け
(生活の工夫と自助具体験)
- ④ Let's 腰痛予防—家でも出来る腰痛体操の紹介
- ⑤ 相談する—リハビリについて、進路について、福祉用具について
- ⑥ 作品展示

一昨年前のイオンモール日吉津（in 米子）での啓発キャンペーン開催からスタートし、昨年度はパープルタウン（in 倉吉市）、今年度は鳥取駅前商店街バード・ハット（in 鳥取市）での開催の運びとなりました。鳥取県作業療法士会広報部員が中心となり「ひとは作業をすることで元気になれる」をコンセプトに、日本作業療法士協会との連携、また、ガイナーレ鳥取の協賛を得て行いました。スタンプラリーも好評で、道行く方に参加して頂き、多くの方に作業療法を知って頂ける機会になったと感じました。当日は、協力者 25 名（鳥取県作業療法士会 24 名、日本作業療法士協会 1 名）と多くの協力者の方々のおかげで盛況のうちに終えることができました。ご協力頂いた皆様、会場に来場して下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



【領域対策部】

現職者選択研修（老年期領域）のご案内

期日：平成 28 年 3 月 6 日（日） 9：20～16：30

会場：鳥取県西部地区を予定

詳細は、後日県士会ホームページに掲載します。



【地域包括ケアシステム対策委員会】

○地域包括ケアシステム大研修会のお知らせ

テーマ：地域包括ケアシステムの理解と作業療法士の役割

開催日：平成28年1月30日（土）・31日（日）

会場：養和病院 地域交流ホール

会費：会員1,000円 他職種・他県士会員5,000円 非会員10,000円

※参加施設に交通費支給します。

：地域包括ケアシステムは地域医療・福祉にとって非常に重要であり、今後、各地で地域ケア会議・個別会議が開催され、各作業療法士が参加することも増えてきます。医療・福祉に携わる多くの職種が、そのシステムの理解と、自分たちがどんな形で貢献できるのか模索しているところです。各作業療法士は今後、多職種との連携が増え、そこでの発言・行動の責任の重さは、増してくるはずです。

今回の大研修会は、会員の皆様が施設内における作業療法だけでなく、地域活動でも対応可能な力を身につけるべきと考え企画しました。そのような状況から、少しでも多くの会員の出席を願うと共に、各施設からの参加を考慮し、交通費の支給を決定いたしました。

○西部地区地域包括ケアシステム研修会

開催日：平成27年12月13日（日）

時間：13:00～16:00

会場：西部歯科保健センター（びあべール米子 横）

会費：県士会員500円

講師：鳥取大学医学部 地域医療学 教授 谷口 晋一 氏

：鳥取県歯科医師会 YAデンタルクリニック 足立 融 氏

地域包括ケアシステムでは、作業療法の知識・技術のみならず、口腔衛生・薬剤・地域の資源など多面的な知見が必要となります。今回は、第一弾として地域の課題や食べること・口腔ケアについての研修を開催予定です。

詳細は、今後ホームページ等にてお知らせいたします。また、東・中部においても研修を企画しておりますので、多くの皆様の参加をお願いいたします。

《会員の異動》

（平成27年10月19日現在：会員数446名、施設数95）

1) 新入会員

		(OT協会会員番号)
遠藤	(日南病院)	65028
中尾	(鳥取生協病院)	63568
緒方	(鳥取医療センター)	61855
原	(ル・サンテリオン北条)	62371

2) 勤務先変更

村上	伯仙デイサービスセンターまごころ	→	新生ケア・サービス
備本	ツクイ 米子旗ヶ崎	→	米子病院
林	自宅会員	→	米子病院
赤井	通所リハビリテーションゆうとぴあ	→	訪問看護ステーション ネットケア
			〒683-0852 米子市河崎 555-2
			TEL: 0859-24-6777
古岡	錦海リハビリテーション病院	→	ハワイ信生苑
			〒682-0715 東伯郡湯梨浜町はわい温泉 58-5
			TEL: 0858-35-5211 FAX: 0858-35-5212

3) 転出 金野 (博愛病院)

4) 改姓 中村 (自宅会員) → 濱田

社会医療法人 藤井政雄記念病院

【病院概要】

○ 病院理念

地域に根差した医療を行います。

予防医学から終末期医療まで幅広い医療を提供します。

医療、福祉、介護の連携の下、両法人の中核病院としての役割を果たします。

・ 総病床数：120 床

3 階病棟（急性期病床：10 床、地域包括ケア病床：48 床）

4 階病棟（療養病床） 52 床

5 階病棟（緩和ケア病棟） 20 床

・ リハビリスタッフ

院内：理学療法士 5 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 3 名

訪問：理学療法士 3 名、作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名

兼務：理学療法士 1 名、作業療法士 1 名



○ 関連施設

医療施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、養護老人ホーム、高齢者向け住宅、地域ケアセンター、就労支援施設、救護施設、グループホーム・ケアホーム、障害者訓練施設、障害者支援施設、訪問看護・リハビリ、保育所と法人内には施設が充実しています。

【当院ならではのリハビリテーションの紹介】

○ 在宅に向けた取組み

～訪問看護リハビリテーションくらよしスタッフより～

当院では訪問リハビリも行っています。新規の方は勿論ですが、当院入院中にリハビリをされている方の中には、引き続き当院の訪問リハビリを利用される方も多くおられます。その際には、入院中から連携を取り、リハビリ見学や退院前訪問の同行等、情報を共有し、退院後の生活にスムーズに移行できるよう、フォローも充実させています。

ご利用中の方は、パーキンソン病や ALS 等の神経難病、内科的疾患、整形疾患等と様々です。今後は小児の受け入れも検討しています。『対象者の方が望まれる生きがいのある主体的な生活』を大切にして、対象者の方や他職種と一緒に前向きに取り組んでいます。尚、琴浦町にサテライトも開設され、鳥取県中部を幅広く活動しています。

○ リハビリテーション科主催の行事

作業療法士が主となって企画をし、リハビリテーション科全体で定期的に季節に合った行事を開催しています。準備はスタッフだけでなく患者さんにも手伝っていただき、患者さんとスタッフが一丸となって当日を迎えます！



クリスマス会の様子♪



夏祭りで皆さんと踊りをしている様子♪

○ 緩和ケア病棟での取組み

*緩和ケア病棟について

主として苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍等の患者さんをその人らしく尊厳をもって、有意義な「癒し」の空間で生活して頂けるように支援する病棟です。体の痛みや、その他の様々な症状、精神的に辛い状態にある患者さんの苦痛を和らげ、充実した時を過ごして頂けるよう、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などがチームを組んで、あらゆる面からサポートしています。

～緩和ケア病棟で作業療法を行っているスタッフより～

病棟のお部屋は付き添いのご家族の方も泊まりやすいように完備されています。ご家族の方も病院が生活の場となっている方もおられるため、毎回作業療法と一緒に参加される方もいます。そのため、患者さん本人だけでなく、ご家族の方の要望や思いを傾聴し、QOLの向上を目指しています。また、役割活動を通し社会的苦痛の緩和や、身の回りの方に対するアプローチなども行っています。実際には、患者さんの妻の誕生日に誕生会を開催したり、他患者さん向けに分かりやすいような病院の紹介冊子の作成などを行い、周囲の方にも喜んでいただけるような関わりを行っています。積極的な離床が困難な患者さんに対しては、苦痛症状の緩和、廃用症候群による二次的障害の予防などベッドサイドでの介入が中心となるケースもあります。

「日々想う事」

渡辺病院

景本

作業療法士として働き始め、早4年目となりました。

今年度より担当させていただく病棟が変わり、そこで認知症の中核症状が重度（HDS-R 0点の方も多）となる方を担当させていただいています。言語的疎通が困難な方が多く、情動面が不安定で、衝動性も強い方との関わりに、私は対象者の方の言動や行為がなかなか理解できず、戸惑い、慌てた対応となってしまうがちでした。

しかし、私が難航する中、先輩 OTR や他職種の方が、ジェスチャーや自身が遷し出す雰囲気、表情などを利用して非言語によるコミュニケーションを図り、不快感なく相手の心へ入り込んでいく姿に、コミュニケーションを専門的に扱い、アプローチの手段として利用する大切さを改めて感じました。

また、“なぜ？”と疑問をもつ視点をもちつつも、焦らず対応し、対象者の方の言動や行為をありのままに受け止めておられる姿勢に「これが本当の寄り添い、相手を尊重した関わりなのかな・・・。」と、日々自分自身の対応を振り返る機会をいただいているところです。

作業療法士は様々な疾患の方に治療的介入の手段として集団やコミュニケーションを扱い、作業を介してアプローチしますが、対象者の方にとって作業療法の時間や、私自身と関わる時間が、安心できる時間となり、その人らしさを引き出す場となるように、相手が本当に望む関わりとはどのようなものであるかを今一度考えていきたいと思ひます。

そのためには、日々の対応を振り返り、自分がどんなキャラクターで、どのように相手に見せた方がよいかを分析すると共に、OTR としての治療技術と、コミュニケーションスキルを更に向上させ、自分を成長させていきたいと思ひます。



編集後記

日に日に寒さが増しインフルエンザが早くも猛威をふるってきました。

予防注射や手洗い励行などで皆さま身体に気をつけて寒い冬を乗り切りましょう。